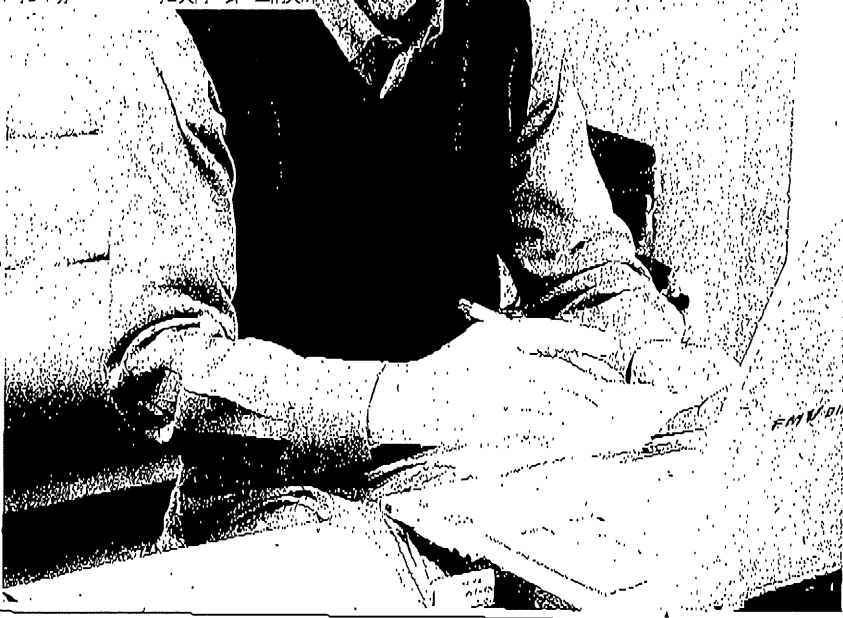


記念論集の編集に当たる隅田正三事務局長



平和の美瑣のため仏典を求めチベットを目指した明治8年、没年不詳の研究、顕彰団体「能海寛研究会」の研究報告を含む120人で、定期学習会を隔月開催し発行。7月に記念論集を発行し節目を祝う。

(村上栄太郎)

NO. 3587  
1995年1月に発行「作品集」は、肉筆の日記や往復書簡など3千点を収録し、誰でも簡単に「能海寛」の資料を手にできる。2010年に刊行した「復刊」は、肉筆の日記や往復書簡など3千点を収録し、誰でも簡単に「能海寛」の資料を手にできる。2010年に刊行した「復刊」は、肉筆の日記や往復書簡など3千点を収録し、誰でも簡単に「能海寛」の資料を手にできる。

### 指定管理者に2団体が応募

ふるさと体験村

2018年10月から休業している浜田市管理の宿泊交流施設「ふるさと体験村」(浜田市弥栄町三里)の新しい指定管理者の公募が15日締め切られ、2団体の応募があった。団体名などは非公表。市が8月中旬までに審査する。

体験村は1987年開設。第三セクター「ふるさと弥栄振興公社」が指定管理者だったが、経営難などで指定取り消しとなった。市は、不採算部門の入浴施設、食堂を廃止して存続させる考えで、2021年4月の営業再開を目指している。

(勝部浩文)

### 浜田 8月末まで受け付け

浜田市が15日、市民からマスクを寄付してもらおう「市マスクバンク事業」を始めた。8月末まで、市役

所の本・分庁舎と4支所、市社会福祉協議会に、受付箱を設置。9月以降、地域で活動する団体、市総合福

25周年の節目を祝う論集は、研究活動を次世代に引き継ぐ資料として会員16人が寄稿し、計292ページになる。隅田正三事務局長(78)は「誰でも参加できる研究会だからこそ25年続けられた」と振り返りながら、能海の意思と歩みを伝える新たな論集の披露を心待ちにしている。

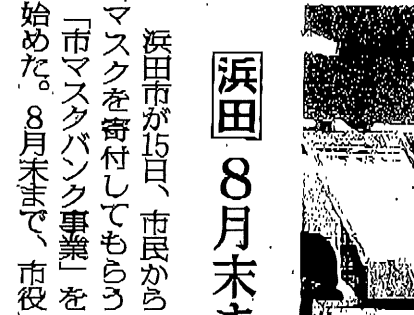
### 未使用マスク 寄付を

「バンク事業」が広がる

社センター(浜田市野原町)の利用者などの活用を想定している。

受け付けるマスクは未開封の不織布マスク、手作りを含む未使用の布マスクなどが対象で、感染防止のため包装してあることが条件。市健康医療対策課によると、市民から「国から支給されたマスクを寄付したい」「手作りマスクを送りたい」などの要望があり、事業開始を決めた。

(陶山真史)



の発信指針を受け、学校、一握供してもらったのは未開封(2)7256。(中山竜一)

### 江津市社会人野球大会 準々決勝、雨で延期

野球の第42回山陰中央新報社旗江津市社会人大会兼

第53回市連盟春季選手権(江津市野球連盟、山陰中央新報社主催)は、雨のため14日に市民球場(江津市嘉久志町)で予定された準々決勝4試合が、21日に延期された。準決勝と決勝の日程は未定。

紙面編集・青山和佳乃

「明窓」書き写し

「明窓」書き写し

家で毎日書き写し

紙面編集・青山和佳乃

「明窓」書き写し

家で毎日書き写し

紙面編集・青山和佳乃